

荒池緑地の自然

明治の中頃から大正にかけて、荒池緑地周辺では、農業の副業として養蚕が盛んに行われており、その名残で緑地には大きなクワノキが多く自生しています。また、秋葉山慈眼寺の辺りでは亜炭の採掘が、緑地から緑区の白土に向けて磨砂の採掘が多く行われており、その塹壕が今でも残っています。

緑地の周辺に人が住んでいた頃は、田畠の耕作や果樹の栽培、雑木林のコナラやアラカシなどは薪炭用として管理され、里山の風景が保たれていました。

近年化石燃料の普及や人が住まなくなったことにより、緑地は荒廃が進み、雑木林が竹に侵食され暗い森になり、里山の景色が失われました。近郊に新たに宅地造成が進むにつれ、荒池、大堤池を中心とした農業用のため池に流れ込む水系の変化が顕著になり、小さなため池の二つ池やトンボ池は、水が枯れてしまいました。

ため池としての機能が不要になった荒池や大堤池は、都市の親水施設および洪水調整池として、護岸工事や運動施設の併設など再整備されました。

名古屋市は、荒廃した緑地を、農業センターを中心とした魅力のある里山風景として再生するため、市民と協働で復元作業を進めています。明るい雑木林や竹林、梅や柑橘の果樹園、蝶やトンボが集まるビオトープ、里山の水田や流れ、都市計画道路で分断された緑地を小動物のためにつなぐコリドー（名古屋市で初）の設置、市民の憩いの散策路や多目的広場など、「市民の憩いの場・荒池ふるさと村」に向けて復元作業を進めています。



荒池緑地の植物

荒池緑地の復元にあたり、緑地に自生する植物の調査をしてきました。現在までに確認している植物は、

樹木：53科151種 野草：70科344種

で、これに農業センター内の栽培植物は含まれていません。



クロミノニシゴリ（ハイノキ科）

荒池緑地には、絶滅のおそれがある貴重な植物のカラコギカエデ、オオハナワラビ、クロミノニシゴリ、ウンヌケや名古屋市東部丘陵地に自生するズミやコバノミツバツツジ、山間地で見られるコバノカモメヅルなど貴重な植物が自生しています。この貴重な植物を絶やさない環境を維持しなければなりません。



コバノカモメヅル（ガガイモ科）

荒池緑地にはコナラやアベマキ、エノキが多く自生していますが、特にブナ科に発生して問題になっている、カシノナガキクイムシによる突然のナラ枯れについては、いち早く幹のラッピング対応で被害を最小限に留めました。

雑木や竹の間伐で日当たりが良くなった雑木林では、新たな

コバノカモメヅル（ガガイモ科）

実生樹木や野草が繁茂してきました。

緑地内で確認されていない植物や外来種植物は持ち込まない事、また特定外来種を見つけたら即駆除する事を原則としています。



竹林に繁茂するフュイチゴ



オオハナワラビ

荒池緑地の昆虫

荒池緑地では、クラブの発足以来7月に昆虫生息調査を実施しています。この調査は、学校の夏休みに、子どもたちと一緒にトラップを仕掛け、昆虫の採取を行います。子どもに人気のあるノコギリクワガタやカブトムシなど甲虫やバッタ類、トンボ、蝶など多種の昆虫が採取できます。



ネブトクワガタ



ウスバカミキリ

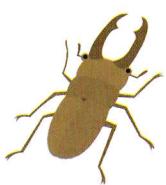


ヒガシキリギリス

10月には、2,000kmを渡る不思議な蝶のアサギマダラの飛来調査を実施しています。捕獲したアサギマダラにマーキングをして、他の地域で再捕獲し、どのように移動するか全国ネットで追跡調査が行われています。荒池緑地で捕獲マーキングしたアサギマダラが鹿児島県の喜界島で再捕獲された実績があります。名古屋・喜界島は1,000kmあり、小さな蝶のどこにこれだけの距離を移動する力があるか不思議です。



アサギマダラのマーキング



荒池緑地の野鳥

荒池や大堤池、雑木林がある荒池緑地は、四季を通じて名古屋でも有数の鳥の種類を観察できるスポットになっています。森林にいる小鳥や猛禽類、池にいる水鳥など野鳥の宝庫です。

渡り鳥や留鳥など、愛知県には398種（レッドデータブックあいち2009）、名古屋には231種（レッドデータブック名古屋2004）の野鳥が観測されていますが、荒池緑地では、2001年～2013年に100種を記録しています。（平針探鳥会調べ）



ミサゴ



オオタカ

春夏には、オオヨシキリやキビタキ、秋冬には、ツグミ、ジョウビタキなどの小鳥やマガモ、オシドリなど水鳥、オオタカやノスリなど猛禽類が見られます。平成26年夏にはオオタカの営巣を確認しました。



カワセミ

した。留鳥ではカルガモ、カワセミなど、漂鳥ではオオルリやアオゲラなどが観察できます。夏には「チョットコイ」と呼び止めるコジュケイがきていましたが、最近は確認できません。生息環境に変化があったのでしょうか。



コゲラ



カルガモ



ヒドリガモ

荒池緑地の水辺の生き物

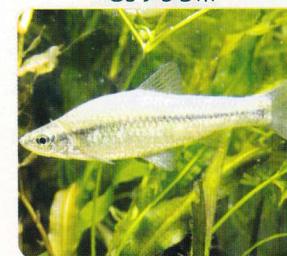


コオイムシ

荒池緑地には、荒池と大堤池という2つの農業用のため池があります。宅地造成が進んだ現在は、農業用の使命は終わり、都市の親水施設および洪水調整池としてのため池となっています。いずれの池にも魚類、貝類や水生昆虫などが豊富に生息しています。

水辺の生き物については、二つ池、トンボ池や水田の生き物調査を行っています。大堤池には、希少なコオイムシや自生するマツモが見られ、浚渫（水底の土砂などを取り除く）工事の折、一部を保存箇所として残しました。

主な水辺の生き物は、魚類ではコイ、フナ、ドジョウ、モツゴで、代表的な外来種のカダヤシ、ライギョ、ブルーギルも確認しています。また、荒池にはミシッピーアカミミガメやニホンヌッポンが生息しています。甲殻類はザリガニ、スジエビがいます。水生昆虫ではコオイムシ、ヒメアメンボ、コマツモムシ、キイトンボやチョウトンボのヤゴ、他には、ウシガエル、タニシなどの水辺の生き物が見られます。トノサマガエルやアマガエルなどカエル類が最近見れなくなりました。生態系を維持するために、「持ち込まない！持ち帰らない！」を原則として管理しています。



モリゴ

荒池緑地には、荒池と大堤池という2つの農業用のため池があります。宅地造成が進んだ現在は、農業用の使命は終わり、都市の親水施設および洪水調整池としてのため池となっています。いずれの池



コマツモムシ



ヒナアナンボ

荒池緑地の生物多様性

荒池緑地は、名古屋市の東部丘陵地にあり、鎮守の森、ため池、雑木林や竹林があり、古くは里山の環境が成り立っていました。緑地周辺の開発が進むにつれて地下水に変化が現れ、二つ池やトンボ池の水は枯渇しました。

「荒池なごやかファーム構想」の策定に合わせ、緑地の整備が進み、枯渇したため池のためには井戸を掘り、水系の復元を図りました。ため池の水を利用した水田の稻には、絶滅が危惧されているカヤネズミの生息が4年程見られましたが、周辺の開発が進んだ現在は確認できません。

平成24年に行われた「なごや生きもの一斉調査（陸貝編）」で、荒池緑地では陸貝の多様性の指数が調査地の平均以上でした。見つかった陸貝の中には、絶滅が危ぶまれる希少なヒルゲンドルフマイマイが見つかりました。ヒダリマキゴマガイも発見されましたが、これは愛知県の山地に多く生息する種で、名古屋市内では極めて珍しい陸貝です。言い換えれば荒池緑地はまだ自然度の高い緑地といえます。

荒池ふるさとクラブは、貴重な生物の保護のために、緑地の環境整備と維持に努め、外来生物を“持ちこまない”“捨てない”“抜けない”の徹底を図っています。



ヒルゲンドルフマイマイ



稻の根元にいるカヤネズミ